

エレミヤ書における神のエコノミーと神の分与

聖書:エレミヤ 2:13, 15:16, 17:7-8, 19-27, 23:5-6, 31:31-34, ヘブル 8:8-12

I. エレミヤ書第 17 章 7 節から 8 節は言います、「エホバに信頼し、その信頼がエホバである者は幸いである。彼は水のほとりに移植された木のようになり、その根を川のそばに伸ばし、暑さが来ても恐れぬ。その葉は茂ったままで、干ばつの年にも心配することはなく、実を結ぶことをやめない」:

A. これらの節は、二つの異なった方法で理解することができます。すなわち、天然の理解にしたがってか、あるいは神のエコノミーにしたがってかです。これらの節は、神に信頼して物質の祝福を受けるという浅薄な事柄と関係があるわけではありません。実は、これらの節は、神の分与によって完成される神のエコノミーを言っています:

1. この啓示が明らかにしている事は、神のエコノミーによれば、神に信頼する者は、水のほとりに移植された木のようなものであるということです。これは、神が生ける水の源泉であることを表徴しています(エレミヤ 2:13 前半)。わたしたちは、神に信頼するだけではありません。神ご自身が、神に対するわたしたちの信頼でもあります。
2. 木は水のほとりで、その水のすべての豊富を自分の中へと吸収することによって生長します。これは神の分与の絵です。これらの木としてのわたしたちは、神聖な分与を受けるために、生ける水としての神を吸収して、わたしたちの存在の中へと分与していただき、わたしたちの構成そのものとなっていたかなければなりません。

B. この思想は、I コリント第 3 章 6 節のものと同じです。そこにおいてパウロは言います、「わたしは植え、アポロは水を注ぎました。しかし、神が成長させてくださったのです」。水を注ぐことは、木が吸収するためです。そして吸収することは、神の分与を受けることです:

1. 木は、供給する方また供給としての神をもって生長します。供給は、植物としてのわたしたちの中へと分与された、供給する神の豊富です。それによってわたしたちは成長して、神の度量へと至ります。最終的に、植物と神、神と植物は、一となって、同じ要素、本質、構成、外観を持ちます——コロサイ 2:19。
2. わたしたちすべてが見る必要のある極めて重要な意義とは、わたしたちが生ける水としての神を吸収し、彼の要素と本質をもって構成され、神の増し加わりによって成長するという事です。命の成長が欠けている

ところでは、信者のクリスチャン生活は混乱し、召会生活は損なわれ、からだの生活は破壊されます。

3. わたしたちは命において成長してキリストのからだを建造するために、神を吸収して、下に根を張り、上に向かって実を結ぶ必要があります(イザヤ 37:31)。これが意味する事は、わたしたちは神との隠された交わりの時間を持つ必要があるということです(マタイ 6:6, 14:22-23)。クリスチャンが力づけられ、照らされ、安息を享受し、歓喜し、信じ、問題を解決し、試みや誘惑や困難に打ち勝ち、慰められることは、祈りと神の言葉を通して神とのひそかな交わりを持つことに、すべてかかっています(ダニエル 6:10, コロサイ 4:2, IIテモテ 3:14-17)。
- II. エレミヤ書第 17 章 19 節から 27 節には、神の安息日を守ることについての言葉があります。神の安息日を守る道は、彼を享受し、彼において安息し、生ける水の源泉としての彼において満足することです——エレミヤ 2:13 :
- A. 神の住まいの建造に関する長い記載の後、出エジプト記第 31 章 12 節から 17 節では、安息日を守る戒めが繰り返されています。コロサイ第 2 章 16 節から 17 節とマタイ第 11 章 28 節から 30 節によれば、キリストは安息日の安息の実際です——ヘブル 4:7-9, イザヤ 30:15 前半 :
1. もしわたしたちが、どのように主のために働くかを知っているだけで、どのように主と共に安息するかを知らなければ、わたしたちは神聖な原則に反して行動しているのです :
 - a. 神が第七日に安息したのは、神がご自身の働きを終えて、満足したからです。神の栄光が現されたのは、人が神のかたちを持ち、神の権威が神の敵サタンを征服するために行使されようとしていたからです。人が神を表現し、神の敵を対処しさえすれば、神は満足しており、また安息することができます——創 1:26, 31, 2:1-2。
 - b. 後ほど、第七日は安息日として記念されました(出 20:8-11)。神の第七日は、人の第一日でした。人は創造された後、神の働きに加わったのではなく、神の安息へと入りました。
 2. 人が創造されたのは、まず働くためではなく、神をもって満足し、神と共に安息するためでした。神にとって、それは働いて安息する事柄です。しかし、人にとって、それは安息して働く事柄です。神聖な原則とは、わたしたちが神に対する満ち満ちた享受を持った後、神と共に働くことができるということです——参照、マタイ 11:28-30 :
 - a. もしわたしたちが、どのように神ご自身を享受し、どのように神で満

たされるかを知らないなら、わたしたちはどのように神と共に働いて、神の神聖な働きにおいて神と一になるかを知らないのです。人は、神がご自身の働きにおいて成就したものを享受するのです。

- b. ペンテコステの日に、弟子たちはその霊で満たされました。それが意味する事は、彼らが天のぶどう酒としてのキリストの享受で満たされたということです。彼らはこの享受で満たされた後はじめて、神との一の中で、神と共に働き始めました——使徒 2:4 前半, 12-14。
 - B. 神の民としてのわたしたちが帯びなければならないしとは、わたしたちが神と共に安息しており、神を享受しており、まず神で満たされているということです。それから、わたしたちを満たしている方と共に、わたしたちは働きます。さらにまた、わたしたちは、神と共に働くだけでなく、神と一であることによって働き、働くための力また労苦するための活力としての神を持ちます——出 31:13, 17。
 - C. 召会生活の中で、わたしたちは多くの事柄を行なうかもしれませんが、最初に主を享受しておらず、また主と一になることによって主に仕えることをしていないかもしれません。このような奉仕は、霊的な死という結果になり、またからだの交わりを失うという結果になります——出 31:14-15。
 - D. 召会を建造する主の働きは、神に対する享受をもって始まるべきです。これが示している事は、わたしたちが神のために働くのは、自分自身の力によってではなく、神を享受し、神と一になることによってであるということです。これが、わたしたちの霊の中の内なる安息としてのキリストをもって、安息日の原則を守ることです——I コリント 3:9, 15:58, 16:10, II コリント 6:1 前半。
- III. エレミヤ書は全聖書の要約です。エレミヤの預言が示している事は、キリストだけが神のエコノミーを成就することができ、キリストだけが神のエコノミーにおける神の要求に対する答えであるということです。エレミヤによって描写された絵は、わたしたちが無であることと、キリストがわたしたちにとってすべてであることを示しています：
- A. エレミヤが語っているのは、キリストが神のエコノミーを完成することにおいて、わたしたちの義とわたしたちの贖いであるということと(エレミヤ 23:5-6)、神が生ける水の源泉であるということと(2:13)、キリストがわたしたちの食物であるということと(15:16)、キリストが新しい契約とそのすべての祝福の実際であるということです(31:31-34, ヘブル 8:8-12)：
 1. 一方において、新しい契約は、神のエコノミーと同義語であり、神の

エコノミーの内容また実質であると言ってよいでしょう——エレミヤ 31:31-34. ヨブ 10:13. 参照、エペソ 3:9:

- a. 新しい契約の主要な項目すべては、神のエコノミーの内容と、神の法理的な贖いと有機的な救いを伴う神の分与の内容とであり、それはわたしたちを神化して、キリストのからだを建造し、新エルサレムにおいて究極的に完成します。
 - b. 使徒たちの務めは、神の新しい契約のエコノミーのための務めです。この務めは、神のエコノミーを中心とする新しい契約の務めです——I テモテ 1:3-4. 参照、II コリント 3:3, 6。
2. 他方において、新しい契約は、神がご自身のエコノミーを成就する、あるいは完成する道であると言ってよいでしょう。コリント人への第二の手紙は啓示していますが、新しい契約の務めは、神の永遠のエコノミーを完成するためです——II コリント 2:12—4:1。
- B. キリストは、新しい遺言(新しい契約)の実際、すなわち、神であるすべてと神がわたしたちに与えてくださったすべてとの実際です。ですから、キリストが新しい契約です:
1. 遺贈は多くありますが、これら多くの遺贈すべては、実はひとりのパーソン、すなわち、霊なるキリストです——イザヤ 42:6. 49:8. エレミヤ 31:31-34. ヘブル 8:8-12. ヨハネ 20:22. エペソ 3:8。
 2. この新しい遺言の中で主がわたしたちに遺贈してくださったものは、無尽蔵です。それらは、永遠にわたってその霊を通してわたしたちが経験し享受するものです——ヘブル 9:15。
 3. わたしたちは、わたしたちの先祖たちが行った太古の^{みち}徑を歩んで、神のエコノミーを中心とする新しい契約の道、すなわち、命へもたらず道を歩む必要があります。迂回路は、サタンの計略の道であって、彼の巧妙な戦略にしたがって破壊へともたらします。迂回路を歩むことは、下に向かって行くことですが、太古の徑を歩むこと、すなわち、築かれている道を歩むことは、上に向かって行くことです——エレミヤ 18:15. 参照、マタイ 7:13-14。
 4. 新しい契約、すなわち、永遠の契約において、神はわたしたちに一つの心と一つの道を与えてくださいます(エレミヤ 32:39-41)。一つの心とは、神を愛し、神を尋ね求め、神を生き、神で構成されている心であり、それはわたしたちを神の表現とならせます。一つの道とは、内なる命の法則とその神聖な能力としての三一の神ご自身です(31:33-34)。この一

つの心と一つの道が、一つ思いです(使徒 1:14. 2:46. 4:24. ローマ 15:6)。

C. キリストは天の御座に座している昇天した方であり、彼が遺言としてわたしたちに遺贈した新しい契約を今や執行しており、わたしたちのためにとりなし、わたしたちに供給しています。それはわたしたちが、新しい遺言の中に含まれているすべての遺贈を認識し、経験し、享受するためです——ヘブル 12:2. 7:25. 8:1-2:

1. 新しい遺言、新しい契約、遺言書は、キリストの死によってすでに有効なものになりました。そして、復活と昇天のキリストによって執行され、履行されつつあります。
2. 新しい契約は、新しい遺言としてすでにわたしたちに遺贈されています。そして今や、キリストは彼の天の務めの奥義的な領域の中で、彼が遺贈したものを執行しています。
3. キリストは今や天において、生きていて、神聖であり、能力を持っています。彼は、新しい遺言、新しい契約を、あらゆる詳細にわたって執行して、その中にあるあらゆる遺贈をわたしたちに対して便利で実際的なものとすることができます：
 - a. 神聖な大祭司として、キリストは、わたしたちのためにとりなすことによって新しい契約を執行しており、わたしたちが新しい契約の実際の中へともたらされるようにと祈っています——ヘブル 7:25。
 - b. 新しい契約の仲保者、執行者として、キリストは、彼の天の務めにおいて新しい遺言を執行しており、またその遺贈のあらゆる項目をわたしたちの中で遂行しています——ヘブル 8:6. 9:15. 12:24。
 - c. 新しい契約の保証として、キリストは、新しい契約の中のすべてが成就されるという担保です。彼は、新しい遺言の効力を保証し、確実なものにします——ヘブル 7:22。
 - d. 真の(天の)幕屋の奉仕者として、キリストは、新しい遺言の遺贈、祝福をもってわたしたちに仕えており、新しい契約の事実をわたしたちの経験の中で有効なものとしています——ヘブル 8:2。
 - e. 羊の大牧者として、キリストは彼の牧養によって、神の永遠の契約にしたがって、新エルサレムを究極的に完成しつつあります——ヘブル 13:20。
- D. もしわたしたちが、新しい契約の中のすべての祝福の適用を受けようとするなら、キリストの天の務めに応答する者となる必要があります——ヘブ

ル 12:1-2. コロサイ 3:1:

1. キリストの天の務めが新しい契約を執行することは、わたしたちの応答を必要とします——ヘブル 7:25. 4:16. 10:19, 22:
 - a. 何世紀にもわたってキリストは、彼の天の務めに応答する一群れの人々を得ようと試みてきましたが、十分には成功しませんでした。
 - b. 主のあわれみと恵みによって、今日、地上には、キリストの天の務めに応答する主の回復の中の一群体の人々がいます。
 - c. かしらが天でわたしたちのためにとりなし、わたしたちに供給しているとき、からだであるわたしたちは地上でキリストの天の務めに応答し、彼が新しい契約を執行するために行なっている事に符合し、反映するようにします——エペソ 1:22-23. 4:15-16. 使徒 6:4。
 2. わたしたちの目は開かれて、新しい遺言と、新しい契約と、遺言書と、そのすべての遺贈とについての天のビジョンを見なければなりません——エペソ 1:17-18. 使徒 26:18-19:
 - a. 御父はすべての事を約束し、主イエスはすべての事を達成しました。今や、達成されたすべての事実は、遺言書の中に挙げられており、わたしたちの遺贈となっています——ルカ 22:20. ヘブル 9:16-17。
 - b. もしわたしたちが天のビジョンを持って、神の祝福のすべてが遺言書の中の遺贈であることを見るなら、わたしたちは貧しい乞食こじきのように祈るのではなく、栄光の相続人として祈り、信仰によってこの遺贈を受け取ります——ローマ 8:17. エペソ 3:6. ヘブル 6:17. 1:14。
 - c. もしわたしたちが新しい遺言(新しい契約)についての天的な見方を持つなら、わたしたちの観念は変えられ、わたしたちは徹底的な大変革を持ち、わたしたちは我を忘れて主を賛美します——Ⅱコリント 5:13. 啓 5:6-13。
- E. わたしたちはエレミヤ書第 31 章 31 節から 34 節を説明するために、新約の二十七巻の書すべてを必要とします:
1. もしわたしたちが新約全体の光の中でこの部分を理解するなら、この新しい契約の中には、召会、神の王国、神の家族、わたしたちの霊の中にある神の住まいとしての神の家、新しい人、手順を経て究極的に完成された三一の神の豊満としてのキリストのからだがあることを、わたしたちは見ます。
 2. 最終的に、この新しい契約は千年王国をもたらし、究極的な完成においては、新天新地の新エルサレムをもたらして、永遠へと至ります。